

# 地域おこし協力隊“奔走中”

●移住定住促進担当  
中平次郎です。

「過疎地域」に指定された立科町。人と自然が再び輝きを取り戻すために、次の4つの利活用が必要だと考えています。

①空き家、②空き店舗、③空き事務所、④空き別荘の利活用、それが今の課題の1つになっています。利活用の目的は、立科町の再生、および地域の活性化を推進するためです。

4つの利活用を推進するにあたり、立科町の認知を高め、移住希望者の受け入れが必要です。首都圏からばかりでなく、近隣エリアからも移住相談はあり、多くの人を迎え入れていくにあたり、空き家の利活用と住宅環境整備は、立科町にとって最重要テーマと言えます。

また、立科町に来て事業を始めたいという方々もいます。空き店舗や空き事務所の利活用を推進するために、補助金に関する要綱変更や、事業者支援のための新たな仕組みづくりの必要性も感じています。

現在は、空き別荘も空き家バンク登録ができるようになっています。より多くの皆さんに空き家バンク制度について知っていただき、積極的に活用していただくよう、奔走が続きます。



「信州で暮らす、働く」フェアに出展しました!

## DX

Digital Transformation

デジタル・トランスフォーメーション

### バス情報をGoogleマップで公開



こんにちは。デジタル化推進専門官の渡邊です。今回は立科町が取り組んでいる「DX（デジタルトランスフォーメーション）」の具体的な取り組みを紹介したいと思います。

スマートフォンやパソコンでGoogleマップ(地図アプリ)を使ったことがある方は多いかと思います。

Googleマップの月間利用者数は世界で10億人といわれており、日本では数ある地図アプリの中で利用者数ダントツ No.1という調査結果もあります。普段の生活や旅行の時などに交通情報や飲食店、観光名所を調べたり、カーナビとしても利用したりと非常に便利なアプリです。

私が高原エリアや茅野市方面に行くときには「たてしなスマイル交通」で移動しますが、そのときもGoogleマップを使っています。バス停や時刻表、乗り換え情報を確認するときに役立っています。「たてしなスマイル交通」の情報は2022年7月にGoogleマップに登場しました。立科町役場の企画情報係がGoogle社と協力して実現できました。

世界中の観光客が立科町を訪れたときに、大いに役立つと思います。住民の皆さんもGoogleマップを使って「たてしなスマイル交通」に乗って車窓からの景色を楽しんでみてはいかがでしょうか? きっと新しい発見があると思いますよ。

